

2019年度 全国学力学習状況調査 結果

中学部 9年

【学校運営】

【生徒】



【考察】

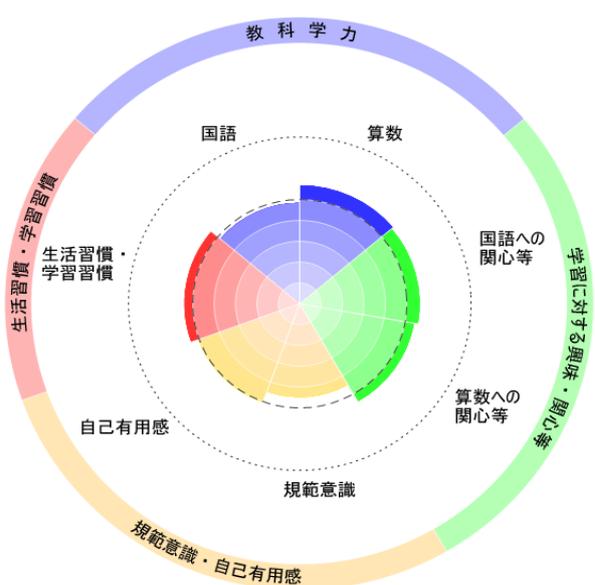
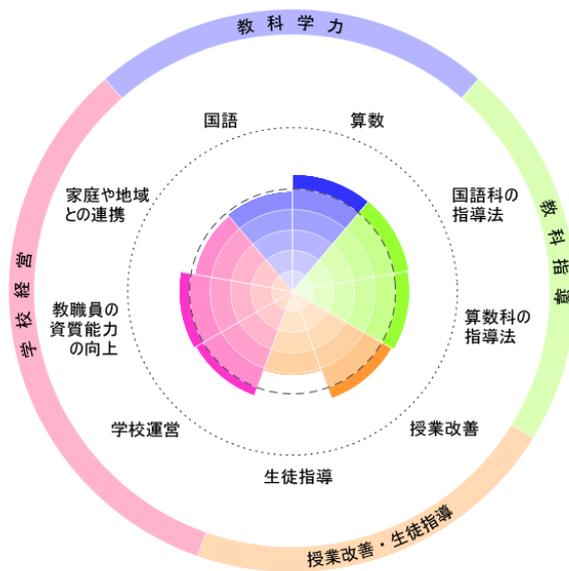
教科学力(テストの結果)については極めて良好な結果が出た。本校の生徒は、学習時間が極めて長く(例:塾・家庭で1日2時間以上学習している生徒の割合:本校 67%、全国平均 36%)、計画性をもって学習する生徒も多い。今回の結果は、学校外での部分も含め、学習が量・質ともに充実していることの反映であろう。我々教職員は、学習内容への意欲をさらに高めるため、教材や活動を工夫するなど、より良い指導方法を研究していきたい。また、生活についての答えが弱含みなのが目に付くが、生徒が自らに課したハードルが高いためであると感じる(例:学校の規則をよく守っている:本校 63%、全国平均 67%)。マイナスの回答があるということに留意しつつ、日々の指導にあたっていきたい。

2019年度 全国学力学習状況調査 結果

小学部 6年

【学校運営】

【児童】



【考察】

算数では全国平均よりも高い結果が出ているが、国語では全国平均よりもやや低い結果となっている。内容的に見ると、問題の指示に適した文章を書くことや適切な漢字を書きとりすることを苦手としている児童が多いという結果であった。この結果をふまえてこれからの指導に生かしていきたい。学習に関する関心については高い結果出ているのでさらに学習効果が高まるような授業展開についても実践していき学力の向上につながるようにする。児童質問紙の集計では、規範意識が低い面がみられるが、これは学校の決まりを守ることやいじめに対する認識が甘いことに起因している。普段の生活指導や道徳の学習の中で改善していきたい。また、自分によいところがあるという自尊感情や学級や友達と話し合ったことについて協力して取り組みたいという気持ちはかなり高い結果が出ていた。地域の行事に参加している比率も高く、地域環境の良さがうかがえる。